

定理 4.3 (1) の証明

49 ページの図 4.2 と同じ記号を使う。このとき、

$$A_1B_1 = \frac{a_m}{2} = \frac{1}{s_n}, \quad A_2B_2 = \frac{a_{2n}}{2} = \frac{1}{s_{2n}}. \quad (1)$$

はじめに $u = OB_1$ とおくと、ピタゴラスの定理と (1) より、

$$u = \sqrt{1 - (A_1B_1)^2} = \sqrt{1 - \frac{1}{s_n^2}} = \frac{\sqrt{s_n^2 - 1}}{s_n}. \quad (2)$$

いま、 $OE : EB_1 = OA_2 : A_2B_2$ かつ $OA_2 = 1$ だから、(1) より

$$s_{2n}^2 = \frac{1}{(A_2B_2)^2} = \frac{(OE)^2}{(EB_1)^2}.$$

さらに、ピタゴラスの定理より、 $(OE)^2 = u^2 + (EB_1)^2$ だから、

$$s_{2n}^2 = \frac{u^2 + (EB_1)^2}{(EB_1)^2} = \frac{u^2}{(EB_1)^2} + 1. \quad (3)$$

線分 OE は $\angle A_1OB_1$ を二等分するから、点 E は A_1B_1 を $1 : u$ の比に内分する。したがって、

$$EB_1 = \frac{u}{1+u} A_1B_1 = \frac{u}{s_n(1+u)}. \quad (4)$$

(3) と (4) より $s_{2n}^2 = s_n^2(1+u)^2 + 1$ だから、(2) より

$$s_{2n}^2 = s_n^2 \left(1 + \frac{\sqrt{s_n^2 - 1}}{s_n} \right)^2 + 1 = (s_n + \sqrt{s_n^2 - 1})^2 + 1.$$

ゆえに、(1) が成立する。 □